

18禁



キョー
ポ
ん
4



はあと
饅頭
マニア



□ Heart Manju Mania □

□ Q-Pon4 □

■まえがき■

ども! はあと饅頭マニアのSD以外は絵描くの諦めてる方、菜森です! はじめましての方も、まいどの方も、手に取って下さいましてありがとうございます! Q-Xオンリー本、きゅーぽん! 4冊目です。

さて、次ページから早速始まる漫画ですが、今回は『幻月のバンドオラ』のメインヒロイン、『まつひー』こと『おにぎりさん』こと鬼切真姫さんです。「純情なのにエロ担当者扱い」という弄られキャラなハの字眉のお嬢様っ娘。ヒロイン3人の中で人気は華麗なる最下位だったっけなあ……(笑) 可哀相でしたが、他の二人がわかりやすい特徴多かったので、正統派ヒロインが目立たないのは必然なのですね。

今回、エロ担当の真姫さんですし、とにかくエロを強化した漫画にするべく、ぶたりで頑張ってみました。(もちろん毎回エロくしようとしてますが) ストーリー的には個別ルートに入ってから少し経った頃。部屋で倒れた真姫、文樹がベランダを越えて助けに来る……その少し前のお話。ま、お話なんてわからなくともエロさえ感じてもらえれば!

漫画のあとには、逸樹のコメントページとさらにイラスト2点。イラストは「挿絵っぽく見えるかな」と小説風のテキストと見開きセットにしてみました。久しぶりに小説式の記事書いて楽しかったです……!

ではでは、またあとがきで!



作：菜森 晶
画：垂方逸樹

疼く…

渦巻く……

わたしはきつと
このままなら
おかしくなる

ひどくなってるのは
アタイのせいじゃ
ないったら

まあまあ真姫ったら
今日も発作が
ひどくて大変ね

どうして性欲なんてあるの？
未来に何を残そうというの？
わたしに……未来なんてあるの？

はあ……
はあッ

エロースさん……
エロースさん！

くっ……
誰のせい……なんですか

エレディーユ様が指名した
コアゲーマー……
あの男がマジメに働いてるから
でしょ？

う……う

はっ
はっ
ギョッ
う……う

文樹さんと出会って
数日しか経ってないのに
遠慮もなく膨らむわたしの欲望

役目を終えるまでに
どこまで大きくなるのか

わたしの心は
耐えきれぬのか……

フフ……
それにしても久しぶり
アナタがアタイに
繋げてくるなんて

普通のオナニーじゃ
とても足りないから直接
頭にケーブル繋いで
ココに来るしかない

アタイとしては快感エナジー
補充させてもらって
ありがたい限りだけど……

も もういいでしょう！
早く準備を……ッひ！

アタイを使うと
刺激が強すぎるって
禁じてたのに

ビクッ

はっあ……
あああああッ!!

びく

びくッ

きゃっ
ひんがら

あらら……
本当に余裕なさそう

至急アナタの求める
シチュエーションを
用意するわ……

ねっと！

なっ………ッ!?

文樹さん……と
uniさん？

真姫ったら……
もしかしてコレ
NTRな趣向ってこと？

フミキ……アタシが
ちゃんとイかせて
あげるわね フフツ

違……わないのかな

結ばれることなんてない……
わたしはこれを見ながら
自分を慰めるのがお似合い

ふっ……ん

あんなスゴいの……
わたしのココにも
入る……のかなあ

んっ……ぐ
……っふー！

は激しすぎ！
あんなにするものなの？

ち 違っ！
わた わたすし
そんなこと考えては……！

チャリッ

ぬるっ……

ぷっつんっ

バポッ

ちゅぽっ

くう……見てるだけで
胸……熱いっ！



んう……ふっ……

ふあ……あ？

射精して
……る？
お口の中に……

びゅん

しゃつ
おつ

んう



あ……
入っ……

本番で長持ち
するようになって
思ったのに
無駄だったかしら？

ぬ



ふつつ簡単に
イッチャって……もー

二くん

そんなにアタシの口
気持ちよかった？



んはうらうツ!!

……ッ！

あ
あ
あ

おつ

好きな人が……
目の前で他の女性と
繋がってる

あ……ふっ！

わたし……どうして
こんなに興奮するの？

んああッ！

ち……千歩子？

真姫がそれだけ
変態さんだから
………でしょ？

ハッ……？

ほらほら……見て？
私も文樹と繋がっちゃったよ

違う現実とはいえ……
悔しくないわけ？

くちゅっ

くちゅっ

ちゅっ

くちゅっ

く悔しいとか……

ちゅっ

ちゅっ

くちゅっ……

文樹さんが誰と
結ばれようと
わたしは……っ

強情だね

自分の膣内が
コレの形に変えられてる
イメージしてオナって
んじゃないの？

NTRって言ってもさー
結局その本人が欲しい
ってことなんだから

そそそそんなな
こじこじ……こじこじ！

ち違う……もん

私はもっと子宮口
グリグリしてもらおうから

ししきゅ……ッ！

……そ？

じゃそいで
見てればいいよ

んぐ……あああッ！！

胸が……熱い？

ううん……痛いよ

かきゅー

千歩子のこと……大好きだけど
わたしよりお似合いかもしれないけど……



イヤ…嫌ッ！
千歩子でも嫌です！

わたわたしは
文樹さんが……っ！

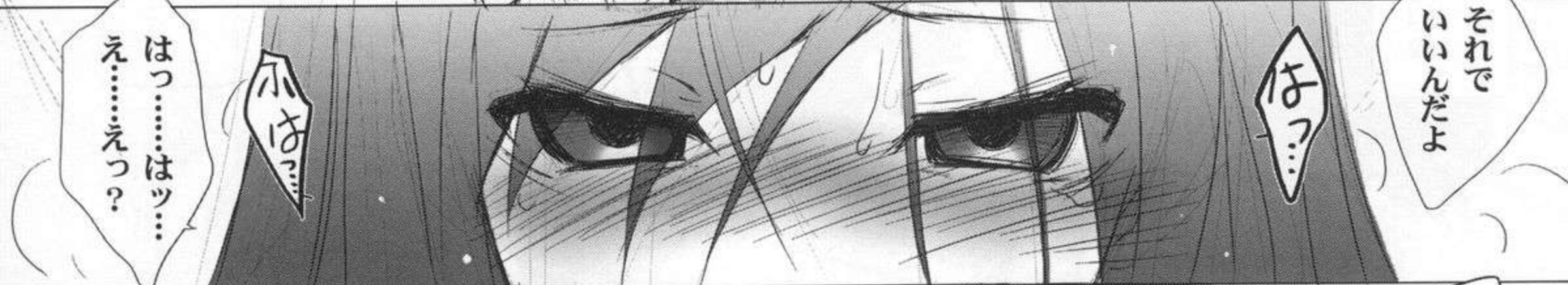
す……あひっ！
くふっくふっくふッ！！

ズッ

びんんっ

めま

めま



それで
いいんだよ

はっ…

はっ……はッ…
え……えっ？

はっ…



真姫が自分自身で
感じて…自分自身で
決めるの

う嘘……
文樹さんが
いつばい……？

おにぎりさん…

は…わま待つて
ちよっ待つ…！！



欲望のままに
俺を求めて
くれていいんだ

やみ見ない…で
下さ……ひっ！

そんなに動揺しなくて
いいんだって

真姫が今本心から
求める欲望イメージ
なんだから……

はっ

はっ

はっ

はっ

こんな…あひっ！
エッチすぎるけど…
求めなてな…いですう！

ふ…あ
ち力…入らな…

はあ

ふふ…エッチだって
認めちやいなよ

真姫にも
幸せを求める
権利があるんだよ

文樹さんの指が…舌が…
体中を駆け巡って…っ！

こんな…犯されてるみたいな
シチュで…わたし…

うあ…ふ…はッ！

ひああッ！
やっや…うあッ！

快感…お大き
すぎて…おかしく
…ななっあッ！

や…はうっ！
そこ…だめえっ！！

そこ…ってココ？
こうしたらダメなの？

はひい…んんッ！



ほっ…
耳と頬と唇と腋と鎖骨と
胸とおなかと太ももと
そして……

わたしの敏感な箇所
すべてを
好きな人が触れている

一番感じる女の部品

やっぱりこれが……
わたしの本質？

ふあっ！

快感レベル……た高すぎて……
いけないままま ピークが続
あっあっあっこれ絶対危っ！

はあっくう！

あひいんツ！！



はぐろぐろぐろッ!!

んあッ!!
は! あはあッ!!

アッ
アッ
アッ

はひ……ひゃー!
め……やめて……え!

駄目だよ……今まで
ずっと抑えてきたんだろ?

自分の欲望……
自由にしてやろうよ

ひい……いあッ!

ほほんと……に
む無理い! ですよ!
ひひっ……はあッ!!

ちっ
ちっ
ちっ

めぬぬ

うあ……
かっ……あふ……

イッて……ますう……ううッ!
これ以上……上に……
行けまうませんんんッ!!

こんなレベル……
想像して……な……

おにぎりさん……
気絶しちゃった?

まだまだ幸せ感じて
もらわないと……





ふ……ふあ……？

ほらほら休みは
終わりだよ

ふえ……あわ？
わわ!!

ひあ……
ほほんほんもも
本物……近ッ!

ひん
はん

ほら……近くで
よく見て

おにぎりさんが
欲しいの……コレだよ



ひん……っ!

怖がらないで……
ただ気持ちよくなって
欲しいだけだから

これで直接……
おにぎりさんの体中に
触れたい……

わわたしなんかの
体……求めてくれる
んですか？

そうだよ
いやらしくて
綺麗な体……

もっともっと
感じさせたい……

すっ
ぬるる……



空気も触れない
その内側の……
柔らかな粘膜まで全部

わわたしの…内側…

触ってない所が
残らないくらい
触らせて欲しいんだ

ほらもう入っちゃおう…

ちゅっ…
ちゅっ…

んん



ひあああああッ!!

ん…ッ!

ちゅっ…
ちゅっ…

んん



憶えているのは
文樹さんの優しさだけ

でもわたしはもう――

フー……

え……わわ!?
ごめん! 泣かないで!

いえ……辛いけど
この人の優しさを受け止めよう

あ……
いいえ

なんでも……
ないんです

冷静には話せないかな…

でも……好きな人が
好きだと言ってくれるんだ

どんな結末が待っているか
わからない だけど……
ホントの想いを伝えよう

ここからは
わたしの
できる限りで――



■まいど一重方逸樹でございます『幻月のバンドオラ』からまっひーまんがいかがでしたでしょうか？ まっひーかわいいよまっひー。アイノ漫画楽しみにしてた方ごめんなさい。また次の機会とゆーコトで…。作画の都合で相変わらずページ数的に少なくてあれですが、相方、茉森のこだわりネームを楽しんでもらえてれば幸いです。ところで今回から同人誌もオールデジタル作業で制作してみました。仕上がりはどうですかね？ やっぱりなれないと、どのぐらいの仕上げがいいかさっぱりわかりませんねー。どう印刷されてるか会場でのお楽しみードキドキ。

■さて本業の進み具合ですけど、設定、キャラクターとかは出来上がってきてるので早くみんなに見てもらいたいんですけど…それは商業的な都合とか色々ありましてまだまだ算段がつかない状態です。ゆるゆるとお待ちくださいませ。まー次のゲームが売れないとQ-Xの存続に関わるので気張ってがんばりますーではまたー。

逸樹

「本当に……いいのか？」

念入りに撫で回していた肉芽から舌を離し、問いかける。その溜息のような声が敏感な箇所にかかり、仰向けでも綺麗な形を保つ凜子の乳房がフルリと揺れる。

ちようど今、階下のコンビニ店内デザートコーナーで大プッシュ中の『白くて丸くて大きなミルクババロア』（二百五十円）のよう——そんな俗っぽい喻えになってしまいう自分の感性にちよつとへこんでみる勇太郎だった。

「しつっこいなあ。その躊躇、ボクを信用してないと受け取るけど」

実の妹と付き合うことになって早半年。『バレる要素を増やさない』というドライな理由から、凜子自身がソレを禁止したはずである。

「信用してる……けどさ」

煮え切らない勇太郎のその言葉に、完熟桃のごとくピンク色に上気した頬をプクツと膨らませる。

「もう……ボクとしたくないわけ？」

「し、したくないわけない……だろ」

凜子が全幅の信頼を寄せる新型ピル。『挿入禁止』だった最初期の頃から完璧に調べあげ用意してたくせに、その日になるまで匂わせもしないというのはサプライズプレゼントのつもりなのか。

「二ヶ月前、兄ちゃんがボクの胸触りながら『ちよつと張ってる』って言ったの憶えてる？ あ頃から服用してて、下準備は全部済ませてあるから。数年前は心配されてた副作用も最小限になってるし、ボクからの年齢のテストも——」

「わかった、わかったって！ まったく、生々しいことをペラペラと恥ずかしげもなく……」

「恥ずかしいって何。ボク達はそこらのバカカップルと違う。もっと真剣に考えなよ。正しい知識があつてこそその近親相姦でしょ」

凜子の言うことはいつも正しい。が、ドライすぎるのも事実。

「凜子が真剣に考えるのは、この関係を続けていくためだもんね。そん

な凜子も……僕は好きだよ」

「え………な、なななに急に。恥ずかしいのはそつちじゃない？」

「あはは、僕もそう思うけどさ。でも、言いたくなつちやっただからしょうがないだろ」

普段言いなりの勇太郎が珍しく企てたラヴコール大作戦が、いかなる時もクールな凜子の心を掻き乱す。

「その気持ちはもちろん嬉しいんだけどさ。ちゃんとした言葉も聞きたいんだよ」

「どういう言葉を……言えつての？」

「凜子はいつも何でも知ってるのに、そういうことは自分で考えられないのかな？」

ちよつと意地悪言いながら凜子の瞳を見つめた。急に恥ずかしくなったのか、中途半端に胸を手で隠しながら凜子は僕を睨む。

「な、なんだよ、怒ったのか？僕は馬鹿にするつもりじゃ……」

「わかってるつてば」

嘘のバレた子供のように唇を尖らせながら言う。小さく体をよじり、三十秒ほど考えた結果、あらためて兄兼彼氏を睨め付けた。

「ボクは……兄ちゃんとセックスしたいの。本気でそう思うから、いっぱい調べたよ。好きだから。ずっとこのままでもいいから……」

あらためて。実の妹に対して何をこんなにもドキドキキョクンして居るのか。広い世界で、限られたごく少数の『兄』だけが感じることでできる気持ち。『妹が可愛すぎるのでセックスしてみた』なんて、どこかにスレでも立てようものなら、おそらく一瞬で『もつとうまく釣れ』

『リアルで妹好きとかアリエンキモイ』式のレスで埋まってしまうな。しかし、勇太郎は確かに、そんな特別に特別なものを感じていた。

「なにポーツと見てんの。恥ずかしいセリフ言わされて、正直もうネットに逃げ込みたいくらいなんだけど？」

「あ、ご、ごめんごめん。そうだよな、今、現実なんだもんね」

「うっ……だ、だから意識させないでよ！いつまで女を待たせるつも



「ふむ、とても似合ってるぞ。うんうん」

散々もめてはみたものの、最終的にはテュロウの要望を聞き入れてしまふ。そんな自分を情けなく思いつつも、すべてがうまく行き始めている今、水をさす必要もないかと自分に言い聞かせるみさらだった。

「しかし、この服を着てその……い、いたすことに何の意味があるのだ？ 千名希の世界での制服など、そなたは何の思い入れもないであろう」

「男というものはだな、女&制服という組み合わせにロマンを感じてしまふものなのだ。だが、どうだ？ ノエン学園は学年によって僅かな変化もあるにはあるが、基本的にはほぼ変わらない。このままでよいのか？ いや、よい訳がない！」

暑苦しく、拳を握り力説する。これまでのつぺりとした感情しか出せていなかった男が少年のようにキラキラと目を輝かせて。

『夜の営みを自由にしてよい』式なことを言ってしまったのは、やはり早計であったか。これから先、どのような恥ずかしい衣装を持って来ることやら――。

背すじにおぞましい寒気を感じ、みさらは我が身を抱きすくめる。その身につけている千名希の中学時代のセーラー服は、いくらみさらが細身とはいえ、立派な二つのふくらみはギュウギュウに締めつけられ、ぷつくりと突起を浮かび上がらせていた。

「うんうん、みさらの新鮮な魅力を感じるぞ。これを見てくれ」

「ぬあ……ぬ、脱いでもおらぬのに何なのだその反り方は！」

「だからその着ているのがエロくて興奮するのだと……ええい、もう辛抱たまらん！」

現実世界でいうところのルパンタイプ(現実でもめつたに言わない)で一気に服を脱ぎ捨て、テュロウはみさらをベッドへ押し倒す。

「ひゃ？ ま、待てー 千名希の贈り物が汚れて……うあっ！」

結局、そのセーラー服を一気に開き、テュロウは待ちきれぬとばかりに両の手で形の整った乳房を掴む。その指を小刻みに沈ませながら、人差し指は別の生き物のごとく動き、ツンと尖った乳首を弾く。

「あうんっ！ やっ、ちよっ、がつつくでない！ みさらはもう、そなたの元から離れることはないのだから……」

「結ばれたから落ち着いてよい、などというのか？ 好きだからこそ、この気持ちそのまま盛り上がるのは当然のことだ」

テュロウはむしろさらに鼻息を荒らげ、両乳房を攻めつつもプリーツスカートの頭に頭を突入させる。シルク地のショーツの中心に尖らせた舌を押しつけると、「きゃう！」という少女のような悲鳴。さらに、ぬめりを帯びた体液がジワリと漏れ出る。

十分な潤いを確認し、目にも止まらぬ早業でショーツをずり下ろす。何か言う暇も与えず、裂け目に溜まった蜜を舐めとると、みさらの体が釣り上げられた魚のように撓い、その瞬間、新たな潤滑油が尻を伝って流れていく。

「十分すぎる濡れ具合だな。前戯が少なくても不満かもしれんが……もう我慢できん。すまん」

「ふ、不満だなどと……みさらはそのようなことっ！」

みさらはそう言っ、真っ赤に染まった頬を乳首よりも先に手で隠す。「い、いや、しかし、ちょうどよい機会だ。いつもそなたに攻められてばかり……妻として、これではいかん」

ベッドの上に立ち上がった乱れセーラーなみさらは、見下ろすようにテュロウを睨む。王妃として貞淑にと心がけているつもりではあるが、やはりなかなか長年磨いてきた切れ味は隠しようもなく。

「今日はみさらが満足させる。そなたはおとなしく寝ておるがよい」

照れ隠しがさらなる高飛車を呼び起こす。久しぶりに見る『らしい』表情に、テュロウはある種の心地よさを感じていた。

天を突く剛棒をまたぎ、みさらはコクンと喉を鳴らす。いつもと違い、入ってくる瞬間を自分でコントロールすることに、予想以上の緊張が走る。自分に言い聞かせるようにひとつ頷くと、濡れそぼつ下の口がテュロウの巨塔を一気に飲み込んだ。

「んっ……くうううううッ！」





■あとかき■

ここまで読んで下さってありがとうございます
ございます！ あらためまして、茉森です。
『きゅーぼん』も今回で4冊目。
ファンディスクの代わり……ではないですが
『的なものとして始め、何より自分達が楽しんで
作っています。読んで下さる方にも楽しんでもらえていれば最高です。

ぶっちゃけ話ですが、最初は自社パロなんて全然売れないんじゃないかと思っていたんですね。こうして続けていけるのは買って下さる皆様のお陰。本業の方は、言えないような事情もあり、何かと苦勞してしまっているのですが、勝負をかけるべく気合入れてやっていきたいと思ひます。結果的にこんなスローペースでしかやれていないので、なかなか「応援して下さい」とも言いにくいのですが……それでも応援して下さい皆様へ最大限の感謝を。本当にありがとうございます……！

さて、この本は今年3月、東日本の大災害・福島原発事故があつてから最初のコミックマーケット合わせとなります。たくさんの方が、今現在も大変な生活を強いられています。こんな本の中ですが、心からお見舞い申し上げます。

私達も個人的に義捐金寄付をしていますが、会社としての力など無く……歯がゆい想いがありました。が、何もできない限りは今まで通り普段通りできることをやるしかなく。今回の夏コミ、仕事のこともあつて悩んだのですが本格的に忙しくなる前の最後のイベントとして、やはり参加することにしました。

あらためて、それぞれ大変な思ひをされている方が一日も早く良い状況になりますよう祈っております。

ではでは、今回はこれにて。
またいつか、お会いできますように！

■きゅーぼん4!■

発行	はあと饅頭マニア
発行日	2011年8月14日
即売会価格	400円
印刷	ホー721様

いつもお世話になってます！

連絡先： show@matumori.sakura.ne.jp
サークルブログ： <http://hmm.sblo.jp/>
Twitter： <http://twitter.com/Matumori>
<http://twitter.com/akataizki>



おはようございます！

おはようございます